

西山殿後家尼御前御返事

弘安四年 六〇歳

甘酒桶山芋野老少少た
あまざけ一をけ、やまのいも、ところせうせう給び了んぬ。

梵網經と申す經には一紙一草と申して、かみ一枚、くさひとつ。大論と申するんには
土餅
つちのもちみを仏にくやうせるもの、閻浮提の王となるよしをとかれて候。

これはそれにはにるべくもなし。そのうへを^夫とこにもすぎわかれ、たのむかたもなき
尼 駿河 波木井 送
あまの、するがの国西山と申すところより、甲斐国はきぬの山の中にをくられたり。人
にすてられたる^聖ひじりの、寒にせめられていかに心ぐるしかるらんと、をもひやらせ給
ひてをくられたるか。父母にをくれしよりこのかた、かゝるねんごろの事にあひて候事
こそ候はね。せめての御心ざしに給び候かとおぼえてなみだもかきあへ候はぬぞ。日蓮
はわるき者にて候へども、法華經はいかでおろかにおはすべき。ふくろはくさけれど
もつゝめる^包金^{こがね}はきよし。池はきたなけれどもはちすは^清しやうじやうなり。日蓮は日本
第一のえせものなり。法華經は一切經にすぐれ給へる經なり。心あらん人金をとらんと
おぼさば、ふくろをすつる事なかれ。^{はちす}蓮をあいせば池をにくむ事なかれ。わるくて仏
になりたらば、法華經の力あらはるべし。よって臨終わるくば法華經の名ををりなん。
さるにては日蓮はわるくてもわるかるべし、わるかるべし。恐々謹言。

月 日

御 返 事